

平成19年度  
我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業報告書  
- 第2年次 -

研究課題

文化としての繊維を学び、豊かな心をはぐくむ教育の取り組み  
～ 繊維実習を通して、ふるさとの伝統文化を理解する ～

石川県立工業高等学校

〒920-0964 金沢市本多町2丁目3番6号  
TEL(076)261-7156 FAX(076)234-8008

## 1. はじめに

石川県は古くから絹織物や化合繊維物の産地として栄え、高い技術力と生産量から繊維王国と呼ばれてきた。また、伝統工芸の盛んな地域としても知られ、加賀友禅に代表される伝統工芸品の数々は、時代を経ても色あせることなく人々に愛され、今日まで脈々と受け継がれてきた。

本研究は、伝統的な繊維実習を通して我が国に伝わる繊維の伝統文化について理解し、尊重する心を育むための効果的な指導法や教科の指導計画等について実践研究したものであり、テキスタイル工学科において平成18年度より2年間に渡り取り組んできた。

初年度は、従来行われていた繊維の実習内容を伝統文化という視点で整理し、各学年で系統立てて学習ができるよう、教科と関連づけて教育目標を設定した。そうすることにより学習活動がつながりあるものとして、より明確にとらえられるようになった。また、外部講師と連携して実技講習会を行い、教員の技能向上を図ったり、地元の子供たちを対象にしたものづくり体験「県工ものづくりワールド」で組紐や手織り等の伝統文化に触れる機会を提供するなど、地域への普及活動も行った。

本年度は、「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の指定校で、郷土の伝統文化について学習している金沢市立味噌蔵町小学校と交流実習を行い、出会いやものづくりの喜びを感じながら、伝統文化学習の機会を共有することができた。また、外部講師と連携しながら学校開放講座を実施するなど、地域への普及活動を充実させた。

本報では、本年度の取組を中心に報告し、取組の成果や課題について考察する。

## 2. 研究の概要

### (1) 研究主題

「文化としての繊維を学び、豊かな心を育む教育の取り組み」

～ 繊維実習を通して、ふるさとの伝統文化を理解する ～

### (2) 研究の背景

本校は金沢市の中心部に位置し、明治20年(1887年)、石川の伝統産業の担い手を育成する目的で「金沢区工業学校」として兼六園の中に創設された。以来、120年の歴史を誇る国内でも最も伝統ある工業高等学校である。時代の変化に伴い幾多の変遷を経ながら、現在は機械システム科、電気科、電子情報科、材料化学科、工芸科、テキスタイル工学科、デザイン科の7学科8クラスがある。

テキスタイル工学科は、地域の産業の発展に貢献できる人材の育成を使命として県内で唯一の繊維系学科として教育活動を行ってきた。その教育目標は ファッションとしての繊維を学ぶ、素材としての繊維を学ぶ、文化としての繊維を学ぶ、の3つを掲げており、従来から「文化としての繊維」について着目し、繊維の文化や歴史について理解するよう学習計画を実践してきた。平成18年度に本事業の指定を受けたのをきっかけに、長年に渡り取り組んできた学習内容を精選し、新たな取組を加えながら、教育目標がより効果的に達成できるよう検討した。

### (3) 研究のねらい

機織り、草木染、組紐などの繊維実習を通して、繊維の基礎・基本となる知識や技能を習得するとともに、伝統産業として継承され、地域や暮らしに根ざした繊維の文化について理解を深めながら、豊かな心を育むことにある。

## 3. 研究の成果(実践例)

### (1) 学校開放講座の実施

地域の人々に対する生涯学習の働きかけとして学校開放講座「初めての染織体験講座」を開講した。内容は組紐・草木染・手織りの3テーマで、受講生は繊維の伝統文化に触れながら、ものづくりの楽しさを体験することができた。また、在校生は補助員として関わりを持つことで、日頃の学習の成果を実感したり、受講生から伝えられる感謝の言葉に充実感を得ることができた。

実施日：第1回 平成19年6月23日(土) 草木染(紅花、くちなし、玉ねぎ、藍染)

第2回 平成19年6月30日(土) 組紐(キーホルダーづくり)

第3回 平成19年7月7日(土) 手織り(整経)

第4回 平成19年7月14日(土) 手織り(コースターづくり)

講師：伊藤義直氏(テキスタイル工学科旧職員), テキスタイル工学科教員

受講生：7名



図1 草木染



図2 手織り

(受講生の感想)

・初めての経験でしたが、とても楽しかった。織物の大きな作品を作りたかった。また、このような講座があれば受講したい。

・整経が難しかった。もう少し時間があれば、色々な織り方にも挑戦したかった。教職員や生徒の方々、たくさん協力していただき、ありがとうございました。

## (2) 外部講師との連携

伝統や文化を正しく理解し、レベルの高いものづくりを達成するには、長い経験や実績に裏付けされた知識や技術を有する専門家による指導が必要である。昨年に引き続き、外部の専門家と連携を図り、効果的な指導方法について検討した。昨年度は教員を対象に実技講習会を実施し、教員の技能向上を図った。本年度は実習の中で生徒を指導していただきながら、教員の指導力向上を図った。

手織りの指導法について

講師：伊藤義直氏(テキスタイル工学科旧職員)

授業：課題研究(3年生)

実施日：第1回 平成19年12月3日(月)

第2回 平成19年12月4日(火)

内容：「手紡ぎによる糸づくり」や「卓上手機(てばた)による手織り」、「手機を用いた手織り」など、伝統技法を生かしたテーマについてご指導いただいた。中でも、「手機を用いた手織り」は、経験と高い技能が要求され、外部講師の適切な指導が、生徒や教員にとって有意義な学びの場となった。作品が完成したときには、生徒は大きな自信と達成感を感じていた。



図3 手織り指導

(生徒の感想)

・整経するのが大変でしたが、織っている時が一番楽しかったです。織りの技術が向上して良かったです。

組紐の指導法について

講師：金沢市染織作家協会会員 東節子氏(きもの・組みひも学院主宰)

授業：実習(2年生)

実施日：第1回 平成19年12月5日(水)

第2回 平成19年12月12日(水) 金沢市立味噌蔵町小学校交流実習

内容：金沢市立味噌蔵町小学校との組紐交流実習に備えて、「八つ組梅花」の技法を学んだ。紐を組み上げるときの講師の手さばきは見事なもので、その芸術的な美しさとりズミカルな音の響きに感動した。



図4 組紐指導

(教師の感想)

・作品の美しさに加え、組み上げる動作の美しさに感動した。実際にお手本を示してやるのが生徒の意欲に結びつくことを実感した。何事も一流に学ぶことが大切であると思った。自分の技を研鑽していきたい。

### (3) 地域交流

組紐制作を通して、近隣の金沢市立味噌蔵町小学校と交流実習を行った。味噌蔵町小学校は兼六園を校区にもつ、歴史と伝統のある小学校で、「伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の指定校でもある。伝統文化という、互いに共通した教育目標を持つ両校の子供たちが、世代を超えて交流することは意義深いことであり、子供たちは初めての体験に始めは戸惑いながらも、しだいに熱中し、生き生きと取り組んでいた。会話を弾ませながら、出会いのすばらしさやものづくりの喜びを分かち合うことができた。また、加賀百万石の郷土の歴史について理解を深め、繊維の伝統文化について知ってもらう良い機会となった。

講師：金沢市染織作家協会会員 東節子 氏(きもの・組みひも学院主宰)

対象：金沢市立味噌蔵町小学校 5年生 26名×2クラス(52名)

石川県立工業高等学校 テキスタイル工学科 2年生(16名)

実施日：平成19年12月12日(水)



図5 組紐交流

(児童の感想)

・高校生の方が優しく教えてくれてうまくできた。最初はゆっくりしかできなかったけど慣れると早くできるようになった。今度は糸を多くしてやりたい。作品はいい思い出になった。

(生徒の感想)

・小学生に教えることは大変なこともあったが、会話しながら楽しくできたので、またぜひやりたいと思った。人に教えることで自分もしっかりできないとダメなことがわかってよかった。



図6 組紐交流

#### 4. 課題

(1) 交流実習や外部講師による指導は生徒の意欲を向上させたり、自らの生き方を考える良いきっかけとなるが、イベント的な一度限りの学習では意欲を持続させたり、理解を定着・発展させることは困難である。計画的・継続的な実践が必要である。

(2) 生徒が郷土の伝統や文化について理解を深め、それらを尊重する心を育むためには、何より教員自身が伝統や文化に興味・関心を持ち、その価値を理解することが大切である。ものづくりの現場では、手本を示したり、本物に触れることが効果的である。自らの技能・技術が向上するよう研鑽を積まなければならない。

#### 5. 研究実績(まとめ)

##### 1年次の主な取組

時期	主な内容や方法等	成果等
4月	・繊維の実習内容を伝統文化という視点で整理し、教科と関連づけて教育目標を設定した。	・学習活動がつながりあるものとしてとらえられるようになった。
8月	・地域の小中学生を対象にした「県工モノづくりワールド」にて、在校生が手織りや組紐等の繊維の伝統技術について指導し、参加者に伝統文化と触れる機会を提供した。	・日頃の学習を確認し地域の人たちと交流を深めることができた。
11月	・石川県の無形文化財に指定されている伝統織物「牛首紬」の資料館と工房(製造工程)を見学し、理解を深めた。	・実際に見ることで、理解が深められた。
12月	・外部講師による教員対象の実技講習会を実施した。 組紐実技講習会 - 組紐の伝統的技法について - 手織り実技講習会 - 手織りの基礎基本について -	・教員の技能が向上した。

##### 2年次の主な取組

時期	主な内容や方法等	成果等
4月 ～3月	・実習や課題研究で繊維の伝統的技術について、年間学習計画に基づいて学習した。	・伝統文化に対する認識が深まった。
6月 ～7月	・学校開放講座「初めての染織体験講座」を実施した。一般を対象に、草木染・組紐・手織り等の内容で、在校生が補助員として関わった。	・受講生の募集広報や新聞掲載により取組を広く人々に知ってもらうことができた。
8月	・地域の小中学生を対象にした「県工モノづくりワールド」にて、在校生が手織りや組紐等の繊維の伝統技術について指導し、参加者に伝統文化と触れる機会を提供した。	・日頃の学習を確認し地域の人たちと交流を深めることができた。
11月	・石川県の無形文化財に指定されている伝統織物「牛首紬」の資料館と工房(製造工程)を見学し、理解を深めた。	・実際に見ることで、理解が深められた。
12月	・外部講師による実習を実施した。 手織り - 手織りの技法について - 組紐 - 「八つ組梅花」 -	・生徒の技能が向上し、教員は指導法を学ぶことができた。
12月	・金沢市立味噌蔵町小学校と組紐制作を通して交流実習を行った。	・異世代との交流で新たな出会いが得られた。

## 6. おわりに

本研究の取組を通して、生徒は郷土に伝わる繊維の伝統文化について理解を深めることができた。手作業を基本とした伝統技法はものづくりの原点であり、特に手織りや草木染等の作業は繊維の基礎・基本を習得する良い教材として活用できた。さらに、外部講師による指導は、生徒や教員に良い刺激をもたらし、中でも組紐の学習では本物の技に触れることができ、感動した。また、職人たちの磨き抜かれた技を見学して、伝統を継承する大切さを感じると共に、郷土に伝わる伝統文化に誇りを持つことができた。今後も地域の文化と産業の発展に貢献できる人材を育成できるよう研鑽を重ねていきたい。1年生の感想文を紹介し、終わりにしたい(原文のまま)。

私は、県工のテキスタイル工学科に入学して、いろいろな繊維の勉強をする前は、「繊維」といったら衣服などの体に身につけるものや、私たちが日常的な生活に使っているものだけだと思っていました。

でも、県工のテキスタイル工学科に入学して、実際にいろいろな繊維の勉強をしてみると、ファッションだけではありませんでした。今では、最新のジェット機に炭素繊維が最先端材料として大量に使われていて、繊維の技術で飛行機が変わろうとしているのです。私は繊維がジェット機に大量に使われていると知ったとき、繊維はファッションだけだと思っていたので、すごく驚きました。繊維素材で飛行機ができるなんて思ってもいませんでした。繊維について勉強してみると、以外と知らないことが多くて、奥が深いのでおもしろいなあと思いました。

そして、私たちのふるさと石川県には、日本でも有名な「加賀友禅」や「能登上布」などの伝統文化が受け継がれています。さらに、ファッション産業都市として世界に羽ばたこうとしているのです。私はこれからも受け継がれてきた伝統的な染織を守り、どんどん発展してほしいと思います。そのためには、私たち若い世代が頑張らなければいけないと思いました。どんなに機械の技術が発達しても、手作業で手間のかかる伝統の染織の美しさには勝てないと思います。そんな手間のかかる染織でも伝統的に受け継がれてきたのは、機械とは違い、手作業で作ってきた人の暖かさや温もりがあり、人々がそれに魅了されてきたからだと思います。

(途中省略)

私はテキスタイルについてもっといろいろなことを学んで、生かしていけたらいいなあと思いました。そして、染織の伝統を大切に、ファッションから宇宙産業素材まで幅広く勉強し、知識を身につけていきたいです。テキスタイルはファッションだけでなく最先端材料としても使われたりしていて、驚くことが多くて新鮮な感じで学ぶのがとても楽しくておもしろいです。

最後に、2年間の取組に対してお世話になりました外部講師の先生方をはじめ、指導助言をいただきました教育委員会指導主事、交流実習に対して快くご理解・ご協力下さいました金沢市立味噌蔵町小学校織田校長をはじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。

## 7. 参考資料

- (1) 学校開放講座
  - 指導テキスト 別紙 1
  - Webページ 別紙 2
  - 広報ポスター 別紙 3
- (2) 外部講師との連携
  - ・実技講習会ポスター(生徒作成) 別紙 4
- (3) 地域交流
  - 学習指導計画(味噌蔵町小学校交流実習) 別紙 5
  - 交流実習説明資料(石川の伝統・文化) 別紙 6
- (4) 実習テキスト
  - ・工業技術基礎(手織り) 別紙 7
- (5) 新聞記事
  - ・北國新聞・北陸中日新聞より 別紙 8